

定 期 作 況 報 告

平成25年9月
(9月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

8月下旬：最高気温は平年より低く、最低気温は平年並みで、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比254%）。日照時間は平年より少なかった（平年比55%）。

9月上旬：最高気温、最低気温、平均気温はともに平年よりやや低かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比70%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比75%）。

9月中旬：最高気温、最低気温、平均気温はともに平年並であった。降水量は平年より極めて多かった（平年比481%）。日照時間は平年並であった（平年比107%）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は平年と比較して、気温はやや低く、降水量は多く、日照時間はやや少なかった。

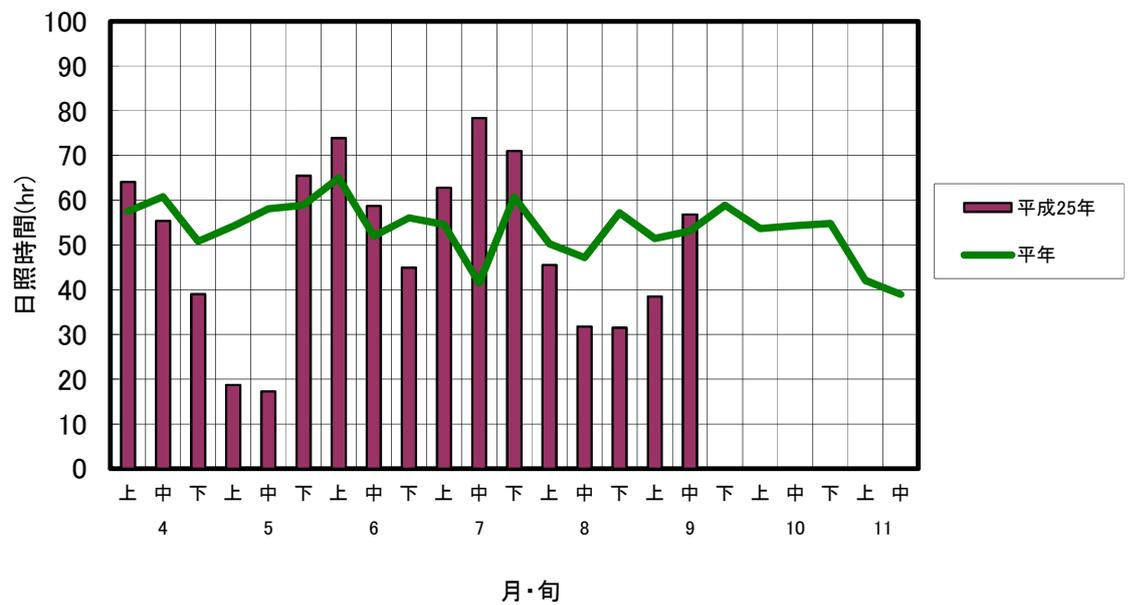
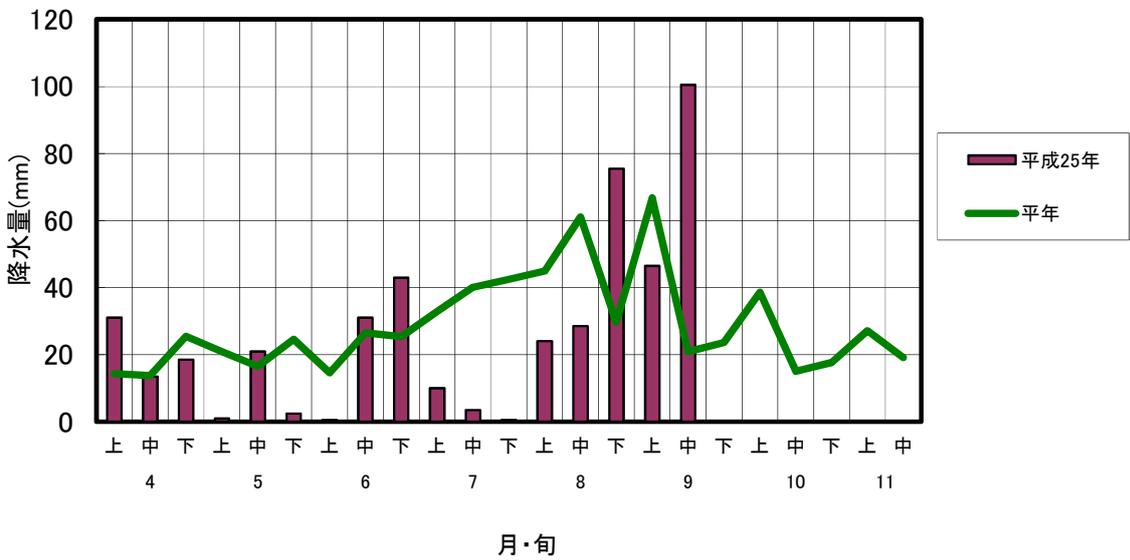
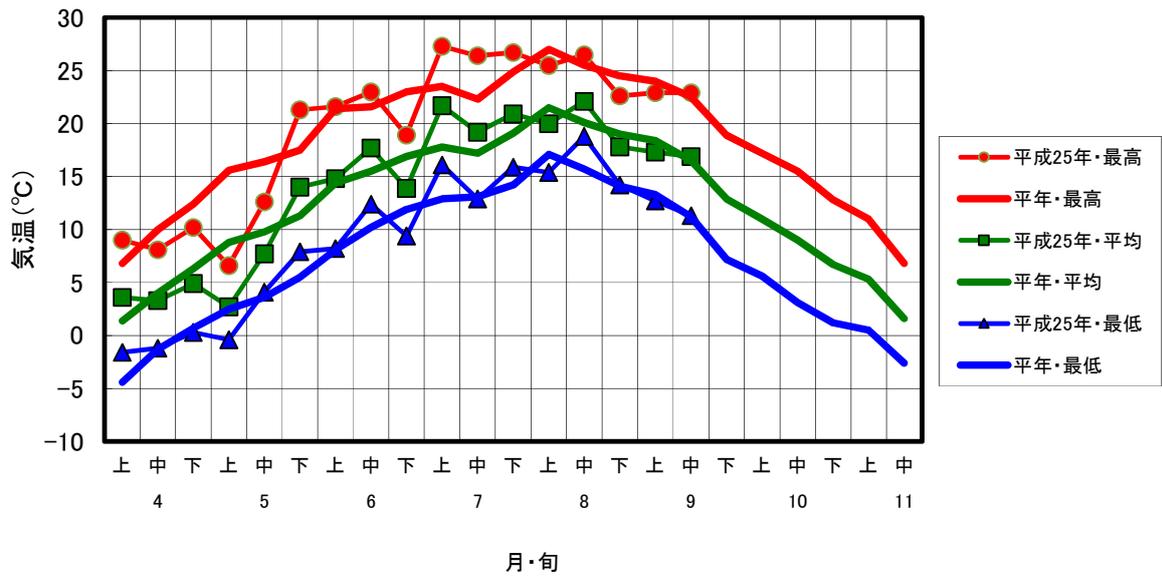
気象表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	17.8	19.0	△ 1.2	22.6	24.5	△ 1.9	14.2	14.1	0.1
9月上旬	17.3	18.4	△ 1.1	22.9	24.0	△ 1.1	12.7	13.3	△ 0.6
9月中旬	16.9	16.5	0.4	22.9	22.5	0.4	11.3	11.2	0.1

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	75.5	29.7	45.8	31.5	57.2	△ 25.7
9月上旬	46.5	66.8	△ 20.3	38.5	51.5	△ 13.0
9月中旬	100.5	20.9	79.6	56.8	53.1	3.7

注) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 春まき小麦 作 況：平年並

事 由：出穂期が1日早く、成熟期が5日早かったことから、登熟期間は平年より4日短かかった。子実重は平年対比97%であった。登熟期間の日照時間は平年より長く、子実の充実が良好となったため、リットル重は平年をやや上回り、千粒重は平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
子実重(kg/10a)	458	474	△ 16	469	465	4
同上平年比 (%)	97	100	△ 3	101	100	1
リットル重(g)	819	795	24	817	800	17
千粒重(g)	40.0	39.7	0.3	42.7	41.5	1.2

注) 「春よ恋」の平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。
「はるきらり(参考)」の平年値は前6か年の平均。

2) とうもろこし(サイレージ用) 作 況：やや不良

事 由：9月20日の稈長は平年を48cm下回っている。抽糸期は平年より3日早く(8月報告)、抽糸期後の気温は全般に平年並で推移していることから、登熟は平年並に進んでいると推測される。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (9月20日)	228	276	△48

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

3) 大豆 作況：平年並

事由：主茎長および分枝数は平年を上回っているものの、主茎節数および着莢数はほぼ平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)		9.27	
主茎長(cm) (9月20日)	70.5	63.4	7.1
主茎節数(節) (9月20日)	11.4	10.9	0.5
分枝数(本/株) (9月20日)	6.5	4.9	1.6
着莢数(莢/株) (9月20日)	67.7	67.5	0.2

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

4) 小豆 作況：平年並

事由：前節まで生育が進んでいたため、成熟期は平年より「サホロショウズ」で5日、「エリモショウズ」で7日、それぞれ早かった。成熟期における主茎長は平年を大きく下回ったが、主茎節数および分枝数は平年並～やや上回っていた。着莢数は、前報では平年を上回っていたものの、自然落莢により減少し平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.13	9.18	△5	9.17	9.24	△7
主茎長(cm) (成熟期)	52.9	83.9	△31.0	46.5	69.8	△23.3
主茎節数(節) (成熟期)	13.5	13.9	△0.4	14.3	14.3	0.0
分枝数(本/株) (成熟期)	5.0	4.1	0.9	4.3	3.9	0.4
着莢数(莢/株) (成熟期)	60.6	62.3	△1.7	63.8	62.9	0.9

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 菜豆

作況：やや不良

事由：登熟期間の気温が平年より高く推移したことから、成熟期は平年より11日早かった。成熟期における主茎節数は平年並であったが、草丈、分枝数および着莢数は平年をやや下回っていた。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.24	9.4	△11
草丈(cm) (成熟期)	42.3	46.7	△4.4
主茎節数(節) (成熟期)	5.0	5.1	△0.1
分枝数(本/株) (成熟期)	3.8	4.1	△0.3
着莢数(莢/株) (成熟期)	18.6	20.2	△1.6

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

6) ばれいしょ

作況：良

事由：「男爵薯」の枯ちょう期は、平年より1日遅い9月3日であった。上いも数が平年よりやや多く、また塊茎の肥大が順調に進んだことから、上いも重は平年を上回った。でん粉価も平年をやや上回った。「コナフブキ」は、上いも重、でん粉価ともに平年をやや上回っていることから、でん粉重が平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちょう期 (月.日)	9.3	9.2	1		10.5	
上いも重(kg/10a) (9月20日)	4828	4387	441	4857	4759	98
でん粉価(%) (9月20日)	15.5	14.8	0.7	22.2	21.2	1.0
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	1028	960	68

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均。

7) てんさい

作 況：やや良

事 由：前報に引き続き草丈、茎葉重が平年並～下回ったものの、根重、根周、根中糖分は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ（参考）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (9月20日)	57.6	64.6	△7.0	58.5	59.1	△0.6	56.9	63.1	△6.2
生葉数(枚) (9月20日)	32.6	29.9	2.7	30.5	30.1	0.4	22.4	21.1	1.3
茎葉重 (g/個体) (9月20日)	840	865	△ 25	816	961	△ 145	716	674	42
根重 (g/個体) (9月20日)	1168	963	205	1102	1045	57	1001	891	110
根周(cm) (9月20日)	36.5	34.4	2.1	37.6	37.1	0.5	34.9	33.8	1.1
根中糖分 (%) (9月20日)	14.41	14.00	0.41	15.19	14.20	0.99	14.84	13.49	1.35

注1) 注平年値は前7か年中、平成21年（最豊）、22年（最凶）を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前3か年の平均。

8) 牧 草（チモシー）

作 況：やや不良

事 由：1、2番草の合計乾物収量は平年比95%とやや少なかった（8月報告）。3番草再生時（2番草刈取後25日目：9月7日）の草丈は平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	3番草再生時	45	43	2

注) 平年値は前7か年中、平成18年（最豊）、21年（最凶）を除く5か年の平均。

9) たまねぎ 作 況：不良

事 由：根切りは、早生種「改良オホーツク1号」では8月5日、晩生種「スーパー北もみじ」では8月22日に行った。両品種ともに倒伏期以降の枯葉が甚だしく、枯葉期は平年より13日早まった。このため、球肥大は劣り、平均一球重、総収量、規格内収量は平年を大きく下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯葉期 (月.日)	8.10	8.23	△13	8.23	9.5	△13
収穫期 (月.日)	8.21	8.30	△9	8.29	9.12	△14
総収量 (kg/10a)	5254	7798	△2544	5016	6988	△1972
規格内収量 (kg/10a)	4127	6573	△2446	4170	6163	△1993
同上平年比 (%)	63	100	△37	68	100	△32
規格内率 (%)	79	85	△6	83	88	△5
平均一球重 (g)	167	265	△98	159	243	△84

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、22年(最凶)を除く5か年の平均。